

Monthly Report



SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.206 / 2023 JUN

(月1回発行)

＜ 目 次 ＞

・全日本学生柔道優勝大会 初の4強入り／柔道部女子	1
・東北学生選手権 女子複準優勝、男子複4位／バドミントン部 ・ファイテンとの共同研究結果について／名取英二教授、柴山一仁准教授	2
・夏へ全力、団体男子4位、女子8位／体操競技部 ・第65回会長杯争奪東北学生ソフトテニス大会優勝／ソフトテニス部	3
・日本学生陸上競技個人選手権大会 3位&6位入賞／陸上競技部 ・第76回東北学生陸上競技対校選手権大会 男子&女子総合優勝／陸上競技部	4
・柔道塾再開しました！／スポーツ健康科学研究実践機構 ・スポーツアナリスト座談会Vol.1を開催しました！／スポーツ情報サポート研究会 ・3年ぶりに「未来先生」が開講！！／教職支援センター ・聖光学院高生を対象に出前授業を実施しました。／スポーツ健康科学研究実践機構	5
・「高校スポーツの安全を守る」Vol.62	6

全日本学生柔道優勝大会において、初の4強入り!!



初の4強入りを果たした仙台大学柔道部女子＝日本武道館

2023年度全日本学生柔道優勝大会（女子32回）において、初の4強入りを果たしました。

【試合結果】

2回戦 vs 帝京大学 1-1（内容勝ち）
3回戦 vs 福岡大学 2-1
4回戦 vs 山梨学院大学 2-1
準決勝 vs 国士館大学 1-1（内容負け）

仙台大学柔道部女子は一部（5人制）のカテゴリー（40大学出場）で素晴らしい戦いを見せ、強豪チームを相手に粘り強い戦いを展開して次々に撃破、初の4強入りを果たしました。

初戦となった2回戦で強豪の帝京大学と対戦し、1-1での内容勝ちを収めました。3回戦では昨年3位の福岡大学と大将戦までもつれる激戦を制し、2-1で勝利しました。4回戦でも過去9回の優勝経験がある山梨学院大学を2-1で退けて勢いに乗りました。

準決勝では国士館大学との対戦になり、ポイントをリードされた展開で大将戦を迎えました。新名彩乃（現武3年）が体重差をもちもせず、果敢に攻め込み技ありを奪いましたが、あと一步のところまで追いつけず、1-1の内容差で敗れました。厳しい戦いではありましたが、選手たちは全力を尽くしました。

柔道部女子は、快進撃を続けながら全日本学生柔道優勝大会に挑み、攻める姿勢を貫いた結果、「新しい景色」を見ることができました。これからもさらなる飛躍を目指して、日々の練習に取り組んでもらいたいと思います。

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報課までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報課までご一報ください。

仙台大学 広報課

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

東北学生選手権 女子複準優勝、男子複4位／バドミントン部

5月22、23日の春季リーグ戦に続いて、5月24～27日に東北学生バドミントン選手権大会が開催され、男女ダブルス、女子シングルスにおいて入賞を果たしました。

10月に開催される全日本学生選手権（インカレ）の推薦出場権は確保しました。同様に8月開催の全日本学生ミックスダブルス選手権（インカレミックス）への出場も決定しました。

男子ダブルスは、上松／高山組が準決勝、3位決定戦ともに接戦を落としてしまい4位となり、インカレの推薦出場権は確保できませんでしたが、インカレミックスへの出場権を確保しました。

東北から男女ダブルスの上位6人が出場するインカレミックスに本学から上記4人が選出されました。ペアリングは他大学も含めて考慮されることになります。

女子シングルスは、優勝候補筆頭の齋藤でしたが、準々決勝で残念ながら力尽きました。この試合まで12試合・25ゲームを戦っており、疲労困憊でした。最終的に5位決定戦を勝ち抜き、5位となりました。

目標としていた春季リーグ戦と東北学生選手権が終了しました。
次は、8月、9月のインカレミックス、東日本インカレになります。今一度、精進し直していきます。

- 男子ダブルス
4位 上松和暉（体育学科4年生）
高山侑也（体育学科2年生）
- 女子ダブルス
準優勝 吉田亜由美（体育学科4年生）
齋藤梓（スポーツ栄養学科2年生）
- 女子シングルス
5位 齋藤梓（スポーツ栄養学科2年生）



ファイテンとの共同研究結果について／名取英二教授、柴山一仁准教授

この共同研究では、本学の陸上競技部に所属する短距離および跳躍種目専門の男子選手23名を対象に、チタンを含有する衣類と、含有しない衣類の2つの条件について試験を行いました。それぞれの試験間には十分な休息を設け、疲労が結果に影響を及ぼさないように配慮しました。なお、試験で使用した衣類は、株式会社ユティックが制作し、ファイテン株式会社がアクアチタン処理を施したものです。

実験の結果、アクアチタン処理を施した衣類の着用が、CMJ(Counter Movement Jump:立位姿勢から下方への反動動作を用いた上方への全力跳躍)、RJ(Rebound Jump)-indexの記録に有意な向上をもたらすことが示されました。特に、RJにおいては顕著な効果が観察されました。

これらの研究成果は、アクアチタン処理を施した衣類が陸上競技者の体力要素、特に跳躍能力を即時的に高める可能性を示しており、本学とファイテン株式会社との共同研究の一環として大変貴重な結果となりました。今後も本学では、科学的根拠に基づいたスポーツパフォーマンスの向上に関する研究を推進して参ります。

結果（跳躍）

表2 衣類のチタン含有の有無による跳躍種目の測定結果

	測定項目	チタン有	チタン無	95% CI	t値	p値	Cohen's d
垂直跳 跳躍高	立幅跳 (m)	2.70±0.19	2.72±0.14	[-0.07, 0.02]	-1.118	0.275	0.15
	SJ (cm)	46.04±3.55	46.01±3.84	[-1.03, 1.10]	0.062	0.951	-0.01
	CMJ (cm)	49.75±5.36	48.98±5.81	[0.19, 1.35]	2.750	0.012	-0.14
リバウンド ジャンプ	RJ-index (m/s)	2.56±0.44	2.44±0.42	[0.02, 0.23]	2.488	0.021	-0.29
	接地時間 (秒)	0.160±0.014	0.163±0.013	[-0.01, 0.00]	-1.169	0.255	0.22
	跳躍高 (cm)	40.59±5.13	39.48±6.11	[-0.49, 2.73]	1.440	0.164	-0.20

チタンを含有する衣類を着用した試技では、垂直跳のCMJとリバウンドジャンプのRJ-indexが有意に大きく、**RJ-indexと接地時間、跳躍高**において**小程度の効果量**を示した。

夏へ全力、団体男子4位、女子8位／体操の東日本インカレ

体操の東日本学生選手権大会（東日本インカレ）が5月27、28の両日、埼玉県熊谷市の彩の国くまがやドームで行われ、本学は団体総合で男子4位、女子8位の成績でした。「日本一」の夢を持つわれわれにとって十分に満足のいく結果ではありません。来る全日本インカレ（8月18～22日、長野市）へ向けて修正を図っていきます。

団体総合で男子は総得点402.050。前回も同様4位ながら総得点396.500だったのでチーム力は上がっています。しかも今回、1位順大、2位日体大に続く3位筑波大とは0.350の僅差。あと一歩です。上位校が全体に力をつけているなかで本学もより高いレベルでの戦いを強いられています。

女子は総得点231.050で前回9位（総得点230.200）から一つ順位がアップ。勢いをそのまま夏に持ち込んでいきます。個人成績は男子総合で佐々木郁哉（体育学科3年生）が総得点82.850で3位に食い込みました。オールラウンダーとして一層の飛躍が期待されます。このほか種目別の入賞者と得点は次の通り。丸数字は順位。

- <床運動>③佐々木（上記の通り）14.300
- <あん馬>⑤佐々木13.900
- <つり輪>④吉田求（体育学科2年生）13.700
- ④岩澤将英（体育学科4年生）同
- <跳馬>③佐々木14.750
- ③小野涼城（体育学科1年生）同
- ⑦岩澤14.350
- <鉄棒>⑤佐々木13.900
- ⑦吉田13.850



第65回会長杯争奪東北学生ソフトテニス大会 優勝／ソフトテニス部

5月6日（土）～5月10日（水）まで、泉総合運動場で行われた「第65回会長杯争奪東北学生ソフトテニス大会」で女子は1部リーグ優勝、ダブルス優勝、2冠という優秀成績を納め、男子は1部リーグ第3位という大健闘でした。優勝しました女子は6月に広島県で開催される全日本大学ソフトテニス王座決定戦へ出場します。引き続きよろしく応援をよろしくお願いします。

団体

- ・女子 優勝
- ・男子 第3位

ダブルス女子

- 優勝 前角地彩菜（体育学科3年）
- 佐藤莉穂（体育学科3年）
- 2位 竹村美夢（体育学科4年）
- 三浦朱璃（スポーツ栄養学科4年）
- 3位 金野里琉（健康福祉学科1年）
- 齋藤禅奈（健康福祉学科1年）

シングルス女子

ベスト8

- ・前角地彩菜（体育学科3年）
- ・三浦朱璃（スポーツ栄養学科4年）
- ・佐藤莉穂（体育学科3年）
- ・竹村美夢（体育学科4年）



日本学生陸上競技個人選手権大会 3位&6位入賞／陸上競技部



2023年4月21日（金）～23日（日）にかけて、神奈川県のリモンガススタジアム平塚にて開催された「日本学生陸上競技個人選手権大会」で、本田姫星選手（スポーツ栄養学科 3年）が女子走幅跳で第3位入賞、大上直起選手（大学院 2年）が男子100mで第6位に入賞しました。引き続き、仙台大学陸上競技部の応援をよろしくお願いいたします。

第76回東北学生陸上競技対校選手権大会 男子&女子総合優勝／陸上競技部



2023年6月9日（金）～11日（日）にかけて、岩手県北上市の北上総合公園陸上競技場にて開催された「第76回東北学生陸上競技対校選手権大会」で、男子総合優勝（6年連続）、女子総合優勝（14年ぶり）という結果を納めることができました。

また、男子4×100mリレーでは、日本選手権100m準決勝進出の大上直起選手（大学院 2年）をアンカーに置いたオーダーで挑み、39秒89の東北学生新記録を樹立することができました。

引き続き、仙台大学陸上競技部の応援をよろしくお願いいたします。

柔道塾再開しました！／スポーツ健康科学研究実践機構

2011年7月より、大学の地域貢献事業として活動をしていました仙台大学柔道塾は、コロナ感染症の影響により、2020年3月から休止をしていましたが、6月10日より再始動しました。

再開当日は、これまでの塾生（中学生3名を含む）6名と新規入塾希望者6名（中学生1名）、計12名でのスタートとなりました。

柔道塾では、専門的な知識と経験を持つ指導陣で、武道ならではの礼節を重んじる行動の修得を基本に、強くたくましく、そして思いやりのある人間に育ってくれるよう、全力で指導にあたってきました。過去には、全国大会に出場するなど、大きく成長を遂げた塾生を数多く輩出しました。

今後の活動は当面、毎週土曜日の18：30から約2時間、第3体育館3階の柔道場で行います。

スポーツアナリスト座談会Vol.1を開催しました！／スポーツ情報サポート研究会

スポーツ情報サポート研究会では、6月26日にスポーツアナリスト座談会を開催しました。第1回目の座談会では、バレーボール部がトークの担当となり、普段の練習や試合の対策について活動内容を紹介しました。バレーボール部は、継続的にアナリストを育成しており、情報を活用した競技力向上に力を入れています。

座談会では、部員たちがどのような練習を行っているかや試合に向けた対策について話をしてくれました。参加した他の部活動（硬式野球、サッカー、バドミントンなど）の学生にとっても、すぐに取り入れられそうなことがあり、参考になる情報や有意義なヒントが得られたと思います。

また、座談会では、リアルタイムでコメントができるようにslidoというサービスを使用しました。参加した学生から投稿されたコメントに対し、話の合間に議論を展開して活発な情報交換をすることができました。



3年ぶりに「未来先生」が開講！！／教職支援センター

2023年6月26日（月）、3年ぶりに「未来先生」が開講を迎えました。柴田町教育長である船迫邦則先生をはじめ、町内の9校の小中学校の担当教師の皆様がご出席くださいました。この「未来先生」プログラムは、文化のまち・教育のまちである「しばた」の教育資産である仙台大学を活用し、児童生徒の学力や体力・運動スキルの向上を図るとともに、仙台大学と柴田町の小中学校の交流を促進することを目的としています。

「未来先生」では、教員志望の仙台大学生が自身の空き時間や放課後を活用し、授業の補助や放課後の学習支援、部活動の指導などに積極的に取り組みます。このプログラムを通じて、仙台大学生たちは実践的な教育経験を積みながら、柴田町の児童生徒たちとの交流を通じて成長し、貴重な学びを得ることができ、児童生徒の学びや成長をサポートするだけでなく、教員志望の学生たちにとっても貴重な経験となることが期待されます。

聖光学院高生を対象に出前授業を実施しました。／スポーツ健康科学研究実践機構

6月20日（火）、聖光学院高等学校（福島県伊達市）にて、2年生約80名を対象とした出前授業が開催されました。当日は、スポーツ栄養学科の岩田学科長が「スポーツにおける栄養の役割」をテーマに、熱のこもった授業となりました。本学教員の授業を初めて受けた生徒達は、真摯な態度で熱心に聞き入っていた様子でした。

次回の公開授業は、7月11日（火）、同じくスポーツ栄養学科の平良先生の授業が予定されております。

川平キャンパスAT・S&CLレポート

「高校スポーツの安全を守る」 Vol.62 ～研究機器を使った体育授業を行っています！

今年4月から開設された川平KMCHのプラクティカルラボ、トレーニングラボには多くの研究機器が設備されています。そしてこれらの機器は今年度からスポーツ創志科の体育授業にて使用されていきます。例えば先日は、スポーツ創志科2年生は剣道の授業でモーションセンサーと足圧分布計を使い、剣道の「すり足」の動きを学びました。五十嵐先生が装着し、模範的なすり足の動きを実践しました。映像で動きを撮影し、下肢に装着した7個のモーションセンサーが股関節・膝関節・足関節の動きを拾い3Dでパソコン画面上に表示、そしてインソール型の足圧分布計は両足部が床に接地するときの筋波形を画面上に表示しています。

「すり足」の模範的な動きを客観的に可視化したものをクラスみんなで確認し、実技に活かしていくという、最先端の授業スタイルでした。

今後も多くの研究機器を授業で使用し、学びを深めていきたいと思っています。

<白坂 広子 助手>



～仙台大学教職員の共通理解事項～

仙台大学の「建学の精神」、「基本理念」、「使命・目的」

建学の精神

「実学と創意工夫」

仙台大学の経営母体である学校法人朴沢学園(明治12年開設)の学園創始者は、建学の精神として「実学と創意工夫」を掲げ、「創意工夫と先見性をもって実学を志し、実学に根ざした人格形成と人材育成を図る」ことをもって先進的な女子教育を行い、寺子屋方式に代え一斉教授法を導入し明治時代の裁縫教育に一大革新をもたらした。

その考え方は、体育系単科大学として昭和42年に開学した本学にも受け継がれ、人格形成の要素である体育・徳育・知育のうち「体育」に教育・研究の重点を置きつつ、実学と創意工夫に根差した広い教育研究領域を探索することに継承されてきた。なお、建学の精神の意図するところについては、開学時の第1回入学式・初代学長告辞にも「社会で充分活動できるための智識と技能を鍛えた心身ともに健康である人間をつくること」であり、仙台大学は、企業等における健康管理・健康指導の企画・実施担当者の育成、各種の運動機構等における実技指導者、ならびに学校体育の指導者を養成することを目的としております」と端的かつ明確に示されている。

基本理念

「スポーツ・フォア・オール」

仙台大学は、昭和42年、単一学部・単一学科で開学した。その後、平成7年度以降、順次学科を増設し、現在では6学科構成としている。また、学科増設に加え平成10年度には大学院スポーツ科学研究科(修士課程)も新設している。こうした教育研究領域の拡大に伴い建学の精神を基盤に据えつつ、大学の新たな基本理念として定めたのが「スポーツ・フォア・オール」である。

「スポーツ・フォア・オール」とは文字通り「スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に」を、すなわち「乳幼児から元気なお年寄りはもちろん、寝たきりのお年寄りまで。そして、性別や障がいの有無を問わず、トップアスリート、生活の中での楽しみや健康の励みとしてスポーツをする人、スポーツをみる人が好きな人、スポーツをささえる人などすべての人を対象としてスポーツを科学的に探究すること」を意味している。

使命・目的

基本理念を踏まえた仙台大学の使命・目的は、仙台大学学則第2条および仙台大学大学院学則第2条にそれぞれ示している。

■仙台大学学則 第2条

本学は、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する諸科学を教授研究し、当該分野における指導者としての専門的知識と技能を体得させるとともに、高い識見と広い視野とをもって、社会の指導的な役割を果し得る有能な人材を育成することを目的とする。

■仙台大学大学院学則 第2条

本大学院は、広い視野に立って、体育・スポーツ、健康福祉、スポーツ栄養、スポーツ情報マスメディア、現代武道及び子ども運動教育に関する学術の理論と応用を教授研究し、当該分野における高度の専門的な職業等を担うための卓越した能力を培い、もって体育・スポーツ及び健康分野の発展に寄与する有為な人材を育成することにより、広く社会に貢献することを教育研究上の目的とする。

その他 (リンクを貼っていますので、項目をクリックして閲覧ください)

■人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的(仙台大学学則別表第一)

■3つのポリシー ①学部 ②大学院

③体育学科 ④健康福祉学科 ⑤スポーツ栄養学科

⑥スポーツ情報マスメディア学科 ⑦現代武道学科 ⑧子ども運動教育学科

■朴沢学園中期経営計画

■事業計画